

意見交換会の開催結果について（森孝中ブロックの小・中学生及び未就学児の保護者の皆様）

・令和 7 年 6 月 4 日(水)、7 日(土)、8 日(日)に本地丘小・森孝東小・森孝西小及び森孝中の保護者の方、未就学児の保護者の方を対象とした「本地丘小学校・森孝東小学校・森孝西小学校の統合及び森孝中学校との併設(案)」に関する意見交換会を開催しました。

・意見交換会でいただいたご意見等とそれに対する教育委員会の考え方をまとめました。

・内容について、趣旨の類似するものはまとめさせていただいたほか、ご意見を一部要約し、また分割して掲載しておりますのでご了承ください。

1 回目:令和 7 年 6 月 4 日(水)19:00～20:00 森孝西小 特別活動室 …参加人数:12 名

2 回目:令和 7 年 6 月 7 日(土)14:00～15:20 本地丘小 会議室 …参加人数:16 名

3 回目:令和 7 年 6 月 8 日(日)14:00～15:30 森孝東小 視聴覚室 …参加人数:23 名

区分		お子様				
		未就学児	小学生	中学生	(うち重複)	合計
学区	本地丘小	3	3	0	(1)	5
	森孝東小	23	15	0	(5)	33
	森孝西小	11	4	0	(2)	13
	合計	37	22	0	(8)	51

1 統合案について

No	ご意見・ご質問	教育委員会の考え方
1	今回の統合案には、3つの小学校と中学校を、現在の中学校の場所に併設校として建設することとなっていますが、小学校と中学校を同じ場所に建設する必要性が分かりません。	今回の統合案は、全学年でクラス替えができない本地丘小学校と森孝東小学校、一部の学年でクラス替えができない森孝西小学校の3校について、クラス替えができないことによる子どもたちの学校生活への影響を考え、小学校を統合して望ましい学校規模にすることを目的としています。その統合する場所については、本市の通学距離の基準としては小学校では2km 以内で、全ての学区の子どもたちにとって、通学の負担が偏らないことが重要だと考えています。そのうえで最も適当な場所が、全ての学区の概ね中央に位置する森孝中学校であり、その場所で併設校の整備を行いたいと考えています。

2	森孝東小学校の場所は、3小学校のうち中央に近い場所にあるので、小学校だけを森孝東小学校で統合して、中学校はそのままにすればよいと思います。	森孝東小学校の場所で小学校のみの統合を行った場合、森孝西小学校の通学区域の中に、本市の通学距離の基準である2kmを超える子どもが出ることとなります。教育委員会としましては、新しい学校をつくっていく際に、敢えて通学の負担が著しく大きくなる子どもが出ないようにしたいと考え、森孝中学校の場所に併設校を整備することが適切だと考えています。
3	新校舎建設中の仮校舎の場所の案ですが、森孝東小学校の子どもだけが、本地丘小学校や森孝中学校の場所に移動する計画になっています。森孝東小学校の子どもだけが環境の変化による負担が大きいのではないのでしょうか。また、中学校の生徒のことを優先して考えているのではないのでしょうか。	新校舎建設中の小学校（東校舎）については、本地丘小学校と森孝東小学校のどちらの場所でも教育活動を支障なく行えるものと考えています。中学校については、体育の授業や部活動を行うことを想定した場合に、本地丘小学校の運動場は森孝東小学校の運動場より狭いため、教育活動への支障がより大きくなると考えましたので、森孝東小学校の場所へ森孝中学校を仮移転する方がよいと考えています。
4	今回の統合案になって森孝東小学校の場所でのサブグラウンドの活用が提案されました。当初から、サブグラウンドが無いと、森孝中学校の敷地では小中学校の併設校として運動場が狭いと想定していたのでしょうか。	当初の計画案では、小中学校の併設校は森孝中学校の敷地だけで教育活動が可能であると考えていました。計画案をお示しする中で、地域の方や学校現場等から運動場の広さについて不十分ではないかといった心配の声を伺っていました。そこで、授業後の中学校部活動を中心として、より充実した活動が見込めることを勘案し、森孝東小学校の運動場をサブグラウンドとする計画案とさせていただきました。
5	今回の説明を聞いていますと、中学校の建て替えを行うために、3つの小学校の統合を同じタイミングで行うようにしか聞こえませんでした。	教育委員会としましては、校舎を新しく建て替えるために統合を進めているのではなく、あくまでも、3つの小学校を統合してクラス替えのできる適正な規模の学校をつくり、子どもたちの教育環境をより良いものにしたいとの思いから進めているものです。
6	子どもたちの生活環境を大きく変えない方向で進めてほしいと思います。例えば、森孝中学校の運動場にプレハブ校舎を建設した上で、新校舎の建築を行う方法などを検討してもらえないのでしょうか。	新校舎の建築工事については、全ての校舎を取り壊しての工事になりますので、工事で必要なエリアはかなり広くなる見込みです。現在の森孝中学校の運動場に中学校用の仮設校舎を建築するとなると、かなり大規模なものとなり、運動場や体育館の確保が困難になることが想定されますので、対応は難しいと考えています。
7	子どもの数が急激に増えた地域では、通学区域を変更して、適切な人数にしていけることがあると聞いています。子どもの数が減っているこの地域も通学区域を変更して、子どもの数を増やすといった考えはありませんか。	通学区域の変更は、変更しようとする地域の住民や町内会等の関係者の同意があれば可能ですが、これまで長く地域活動をその地域単位で進めてきていることや子どもたちの友達関係が分断されることなどから難しいと考えています。

8	小規模校のメリットとして、職員の目が届きやすいとあります。人間関係でトラブルがあった時こそ、職員の目が届く小規模校のままの方がよいのではないのでしょうか。	統合により児童数が増えることで教職員の人数が増えることになります。子どもたちにとって多くの大人の目で子どもたちを見取ることが大切だと考えます。統合した場合でも1学級の人数の上限は決まっていますので、教職員の目が届かないことはないと考えています。一方、小規模校ではクラス替えができないことで、人間関係が固定化してしまうことになり、多くの人や様々な考えと出会える機会が限られてしまい、また、トラブルがあった場合に嫌な気持ちを抱いたまま我慢させてしまう可能性があります。教育委員会としましては、これらの課題の解消に向けて適正規模の学校となるように統合を進めていきたいと考えています。
---	--	---

2 統合校(小中学校の併設校)の施設・生活について

No	ご意見・ご質問	教育委員会の考え方
1	小中学校が併設する統合案となっていますが、子どもたちにとって併設することのメリットとデメリットを教えてください。	小中学校が併設となることのメリットとして以下のようなことが考えられます。(名古屋市の小中学校の併設校である笹島小学校・中学校の事例から) ・中学生が小学生を手伝ったり優しく声を掛けたりする姿が見られます。また小学生の子どもにとって、運動や芸術活動等の交流活動を通して、中学生に対して憧れの気持ちを抱くような育ちが期待できます。 ・小中学校の職員室が同じ施設内にあることで、小学校と中学校の職員が日常的に情報交換を行うことができるので、「中1ギャップ」による問題行動を防ぐことができます。 ・小中学校での合同行事が盛んに行われます。具体的には、運動会や文化祭、環境学習など小中学校合同での取り組みを行うことができます。 ・高学年の授業では、中学の先生が専門分野を活かして授業を担当することができます。 ・将来的に、小学校・中学校ともに児童生徒数が減っていくことが見込まれます。その際に、小中が一緒の場所にあることで教職員の数も一定程度確保でき、多くの大人の目で子どもたちを見取ることができます。 小中学校が併設となることのデメリットとして以下のようなことが考えられます。(名古屋市の小中学校の併設校である笹島小学校・中学校の事例から) ・6年生にとって、中学生と合同で活動する中でも、小学校の最高学年としての意識をもたせる工夫が必要となります。

		・授業時間が違うので、小学生の授業の始まりと終わりはチャイムで管理しますが、中学生はノーチャイムでの生活となります。
2	小中学校が併設校となった場合、小学１年生と中学３年生では体格差がかなりあると思います。一緒に生活するときに安全面等は大丈夫なのでしょうか。	体格が違う児童・生徒が同じ敷地内で生活することへの不安があることは、もっともだと思っています。校舎の配置を工夫して教室は階層別に小学生は低層、中学生を高層に分ける、昇降口を小中で別々にするなどし、併設校での日常生活が安全に過ごせるよう対応してまいります。現在、本市以外の地域でも、義務教育学校をはじめとして、小中学生が同じ敷地内で教育活動を行っている事例は多数あります。教育委員会としましても、これまでも調査・研究をしながら計画を進めていますが、ご意見をいただいたことを受けて、リスクを減らすとともに、互いが同じ空間で生活することへの安全について引き続き研究し、新しい学校に生かしていきたいと考えています。
3	仮に、問題行動を起こしてしまうような中学生がいた場合に、そのような様子を小学生の子どもが目当たりとする可能性があると思うと心配です。一方で、中学校３年生は受験を控えていて精神的にも繊細な状況の中、同じ校舎にいる小学生が騒いでいることの影響にも不安を感じています。	小中学校を併設している笹島小中学校からの聞き取りでは、小学校低学年の子どもが同じ空間にいることによって、小さな子どもへの気遣いをした行動ができる生徒が多いと聞いています。中学生の健全な育成にとって同じ空間に小学生がいることはプラスに働くことと考えています。小学校の子どもにとっても中学生の生徒にとっても、互いに気遣いができるような学校となるように取り組んでいきたいと考えています。
4	統合後に人数が増えたことで、仮にいじめが増えてしまう可能性も考えられると思いますが、その対応について教えてください。	現在、学校ではいじめの認知を積極的に行っています。子どもが少しでも嫌な思いをしたら、それをいじめの可能性があると捉えているようになったことから、いじめの認知件数は年々増加しています。統合することといじめの認知件数の因果関係ははっきりとしませんが、いじめがあった時に子どもたちがどのように乗り越えていくかを支えるとともに学校がどのように対応するのが大切であると考えています。
5	プールの深さは、小学校と中学校では違うと思いますが、どのように考えていますか。また、小学校と中学校では階段の高さも違うと聞きましたが、どのようにしようと考えていますか。	プールの深さには基準があります。笹島小中学校の場合は、低学年用のプールと高学年・中学生用のプールを区分して造られています。授業の時に水位を調整することもあるかと思いますが、小学校低学年から中学生までが基準の水位で活動できるように考えていきます。また、階段の高さは、小学校基準と中学校基準の両方を満たすよう、笹島小中学校の場合は小学校基準の高さで統一されていますので、その例も参考にしながら基準を満たすよう考えていきます。

3 通学について

No	ご意見・ご質問	教育委員会の考え方
1	森孝中学校の場所に小中学校の併設校が建設されることを考えると、通学距離が長くなり、小学1年生の子どもにとって安全に登下校ができるのか不安があります。教育委員会は通学距離が2 km以内で基準を満たしているという説明ですが、昨今の夏の暑さ等を考えると本当に心配です。	これまでの統合校の熱中症対策としては、日傘、首を冷やすグッズ、スポーツドリンクの携帯を認める等の対応をしており、下校時には水筒の中身が無くなっている場合には水分の補給を徹底しています。また、熱中症対策として通学支援員を新たに配置し、通学に慣れるまでの一定期間、一番遠い分団の子どもたちと一緒に登校する等の対応をしています。
2	通学距離が長い子どものために、スクールバスの導入や自転車通学などは検討してもらえませんか。	市内の学校の中には、2 km を超える距離を徒歩で通学している子どもたちもいます。子どもたちの安全等を考えますとスクールバスを活用してほしいというお気持ちも理解できますが、全市的には徒歩での通学を行っているので、2 km 以内の距離でのスクールバスの導入は困難であると考えています。 自転車通学を認めている小学校は本市ではありません。中学校では通学距離が長い地域がありますので、自転車通学や市バスを利用した通学を認めている学校もあります。なお、通学方法については学校長が判断をしていますので、ご意見については新しい学校長に伝えていきます。
3	登下校時のランドセルの重さを少しでも軽くするために、希望する家庭には、教科書を1セット余分に購入して、1セットは家庭に置いて、もう1セットは学校に置くことを認めてもらうことはできませんか。	教科書の複数購入のご提案については、ご意見として承ります。

4 東校舎・西校舎に分かれた小学校統合校での生活について

No	ご意見・ご質問	教育委員会の考え方
1	新校舎の建設中の小学校は、西校舎と東校舎に分かれて教育活動が進められる計画になっていますが、その間、クラス替えができる見込みでしょうか。	統合校の東校舎と西校舎に分かれている時の児童数の想定をすると、西校舎では複数の学年がクラス替えのできない単学級になる見込みです。また、東校舎では、森孝東小学校と本地丘小学校を合わせた児童数でも、すべての学年がクラス替えのできない単学級になる見込みです。
2	西校舎と東校舎に分かれているときに、学校行事は一緒に行う予定でしょうか。新校舎が完成した時に、東校舎と西校舎の子どもがスムーズに生活に慣れるような配慮をお願いします。	統合校として東校舎と西校舎に分かれている時もひとつの小学校となります。例えば、作品展や修学旅行、遠足などの行事を東校舎と西校舎の子どもたちが一緒に行うなど様々な行事で交流を重ねていき、新校舎完成時にも生活にスムーズに慣れるような配慮を行っていきたいと考えています。

3	統合に伴って子どもたちの生活環境に大きな変化があることによって、友達づくりをはじめとして、心に負担が掛かることを心配しています。子どもたちの心のケアについて教えてください。	これまでの統合校では、統合前の段階でスクールカウンセラーによる「友達づくりの工夫」についての授業を行い、子どもたちの不安を少なくするような取り組みを行っています。統合校が開校した際には、スクールカウンセラーを増員し、子どもたちが相談しやすい体制とすることを考えています。
---	--	---

5 障害がある児童への対応について

No	ご意見・ご質問	教育委員会の考え方
1	子どもに発達障害の傾向がありますが、そのような子どもに対してどのようにケアをしてもらえるのでしょうか。	これまでの学校と同様に、入学前の教育相談で学校と話をさせていただいて、子どもにとって適切な教育環境について学校に相談してください。
2	現在、特別支援学級に在籍している子どもたちは、統合校ではどのようになりますか。	統合によって特別支援学級も統合することになりますが、現在と同様に必要な障害種の特別支援学級を設置していきます。心配な点がありましたら、学校に相談してください。

6 跡地について

No	ご意見・ご質問	教育委員会の考え方
1	3つの小学校と中学校が統合した場合、学校の跡地はどのように活用される予定になっていますか。	跡地については統合が決定した段階で名古屋市として活用できるか検討し、決まらない場合は民間貸付などを検討していくことになります。現状は統合が決定していないので検討できませんが、これまでの統合校の跡地は避難所や地域コミュニティの拠点としてのスペースは確保されています。活用事例としては、私立学校、私立保育園、公園、高齢者施設、区役所庁舎などがあります。

7 意見交換会の進め方や資料について

No	ご意見・ご質問	教育委員会の考え方
1	未就学児の保護者向けの意見交換会は今回が初めてでした。これまでその意見を聞かずに進めている点に疑問を感じています。未就学児が学校統合による移行期間に最も影響があると思いますので、今後のスケジュールをはじめとした案の練り直しを含めて、再度意見交換会を開催してほしいです。	今回お示ししたスケジュール案は、この統合案が皆様に一定程度ご理解いただき、スムーズに進んだ場合を想定したものです。今回いただいたご意見を踏まえながら改めて教育委員会としてどのようにしていくか検討したいと考えています。今回の計画に最も影響がある未就学児の保護者の方を対象とした意見交換会をこれまで開催せず、計画案をお示しできなかったことについては大変申し訳ありません。再度の意見交換会の開催についてはご要望として承ります。

2	今回示された資料を見ますと、これまでに示された資料と大きな違いが見当たらないと感じました。イメージ図も無いので、敷地面積が適切なのか狭いのか判断が付きません。具体的な資料を示してください。	今回の資料については、未就学児の保護者の方に初めてお示しするものであったため、計画の全体像が分かるものを準備させていただきました。今回いただいたご意見を踏まえながら検討し、改めて資料をお示ししたいと考えています。併設校のイメージ図についてはご意見として承ります。
3	文部科学省の「学校の適正規模・適正配置及びより良い教育環境の実現に向けた部局横断的な検討体制における学校施設に係る計画策定事例に関する調査」の中には、将来推計について、10年・20年先を見るべきだと書かれています。前回行われた意見交換会でも、3年・5年先ではなく、将来の子どもたちのために10年・20年後の人口推計や児童推計を出してほしいと伝えましたが、どのように考えていますか。	将来推計値については、6年先程度の推計値の傾向が反映されていますので、森孝中学校ブロックにおいては、今後も児童数は減少していく傾向であると考えています。今回の資料は、統合する時期の児童数をご覧いただき、統合計画について考えていただくことを目的として作成いたしました。

8 その他

No	ご意見・ご質問	教育委員会の考え方
1	小規模校の学校になると、当然、教職員の数が少なくなると思われます。しかし、学校の規模に関わらず学校の仕事が減るとは思えませんが、小規模校の教職員の負担はどのような状況でしょうか。	校務分掌(学校の仕事)は学校規模の大小にかかわらず同じようにあります。小規模校では、一人あたりの校務や行事に関わる負担が大きくなる傾向が見られます。例えば、学年に複数の学級がある場合は、同じ学年の担任同士で、授業や行事の内容を相談したり、準備を分担したりすることができます。一方で単学級の場合には、すべてのことを一人で考え、準備を分担することもできないので小規模校の教職員の負担の方が大きいと捉えています。
2	この地域は、小学校と小学校との距離の間隔がとても近く、各学校の児童数も少ないと感じていますが、もともと小規模の学校を設置する意図があったのでしょうか。	森孝東小学校は本地丘小学校が母体校で、本地丘小学校は高度経済成長期に子どもの数が増え、1,000人を越える時期がありました。このため分離新設校として森孝東小学校が近隣に開校した経緯があります。その後、少子化等により児童数が減少したため、少人数の学校が近距離に設置され続けているのが現状です。
3	トワイライトスクールは、開設時間が18時までですが、統合により家からの距離が延びてしまうので、特例として終了時間を少し緩和してもらうことはできませんか。または、開設時間の長いトワイライトルームにするなど検討してもらえませんか。また、近隣に学童保育が	ご意見については、トワイライトスクールや学童保育の所管部署へ伝えさせていただきます。

	1つしかありません。連休や夏休み等の長期休業中などは預けられないことがあります。学童保育等の子どもを預かってもらえる施設を増やすことはできないでしょうか。	
4	当事者である子どもたちの意見を聞くことが大切だと思っています。子どもたちの意見を一度聞いてもらいたいと思っています。	子どもたちの意見を聞く場合、小規模の学校と適正規模の学校の違いについて比較して判断することは、経験がないため困難であると考えています。様々な経験をしている大人が責任をもって判断することが大切だと考えています。なお、統合後に子どもたちや保護者に対してアンケートを行った結果では、統合してよかったという声が多くありました。ホームページでも見ていただくことができます。